

## ★最新介護医療情報★

たばこの総損失2兆円超 関連介護費は2600億 火災による被害も推計  
15年度、厚労省研究班（共同通信社H30.8.8配信）

たばこの害による2015年度の総損失額は医療費を含めて**2兆500億円**に上ることが8日、厚生労働省研究班の推計で分かった。たばこが原因で病気になり、そのために生じた介護費用は**2600億円**で、火災による損失は**980億円**だったことも判明した。

14年度も直接喫煙や受動喫煙による医療費を算出していたが、15年度は介護や火災に関する費用を加えた。研究班の五十嵐中(いがらし・あたる)・東京大特任准教授は「**たばこの損失は医療費だけでなく、介護など多くの面に影響が及びることが改めて分かった**」とし、さらなる対策が必要だとしている。

推計は、厚労省の検討会がたばここと病気の因果関係が「十分ある」、もしくは「示唆される」と判定したがんや脳卒中、心筋梗塞、認知症の治療で生じた医療費を国の統計資料を基に分析。こうした病気に伴って必要になった介護費用や、たばこが原因で起きた火災の消防費用、吸い殻の処理などの清掃費用も算出した。

最も多かったのは、**喫煙者の医療費1兆2600億円**で、損失額の半分以上を占めた。中でも**がん**の医療費は**5千億円**を超えた。受動喫煙が原因の医療費は**3300億円**で、多くを占めたのは**脳血管疾患**だった。歯の治療費には1千億円かかっていた。

**介護費用**は男性で**1780億円**、女性で**840億円**に上った。原因となった病気別でみると、**認知症**が男女合わせて**780億円**と最も多く、次いで**脳卒中などの脳血管疾患**が約**715億円**となった。

都道府県別では東京都が2千億円となるなど、人口の多い都市部で金額が膨らむ傾向があった。

14年度は「因果関係が十分」とされる脳卒中やがんなどに絞って推計。喫煙で1兆1700億円、受動喫煙で3200億円だった。

### ※たばこの健康リスク

喫煙者が吸うたばこの煙には、発がん性物質が約70種類含まれているとされる。厚生労働省のたばこ白書は、喫煙で引き起こされる病気として肺がんや胃がんなどさまざまながんや脳卒中、歯周病、慢性閉塞(へいそく)性肺疾患を列挙。また認知症の発症も、喫煙との因果関係が示唆されるとしている。受動喫煙で周りの人が吸い込む副流煙はニコチンなどの有害物質が主流煙の数倍も含まれている。受動喫煙は、乳幼児突然死症候群や子どものぜんそくの原因にもなる。

## 地域ルピナス講習会のお知らせ

### 第60回東大阪地域リハビリ勉強会

⇒訪問看護の役割

開催日：平成30年9月13日(木)

時間：午後6時00分～午後7時00分

場所：東大阪市立東体育館 第三研修室

講師：ルピナス看護師 勝田智春



### 第20回城東地域リハビリ勉強会

⇒高齢者の機能低下とリハビリテーション

開催日：平成30年9月22日(土)

時間：午後6時00分～午後7時00分

場所：城東区民センター 中会議室

講師：ルピナス理学療法士 山口勇樹

### 第31回忠岡地域リハビリ勉強会

⇒看護とリハビリの連携～創傷管理編～

開催日：平成30年10月19日(金)

時間：午後6時30分～午後7時30分

場所：忠岡町文化会館 3階会議室

講師：ルピナス看護師 愛須史子

